

WANTED!



K. Kirilake & T. Nishikawa

KIDS VOX VOL.8
"THE FINAL ISSUE"

藻屑集

人間が勝手に作ってしまったものだから、気象から言わせると「知ったこっちゃあない」ってなことになるのだろうが。梅雨に雨が降り、真夏が暑いと安心してしまうのは何故だろう。たぶん最近の気象に、人間が影響を与えているということを知ってからだろう。不安を憶えはじめたのは、季節がズレる音に。

「この空を…」という曲を創った時に、その原作詞の中で「少しずつで気づかない、季節がズレる音に」というフレーズがあった。最終的にこの部分は、この曲のポイントをずらしてしまう様な気がして「この空を…」の詞には使わなかったけど。全く最近の気象は、あまりにも季節感というものを無視しているような気がする。まあ季節感自体、

VOL.8

怒羅倉権左工門

真夏

藻屑集もとりあえず今回で休止となるわけだけど、何か結局季節感をだらだらと書いてきたような気がする。これからも水面に浮かぶ藻屑としては、時代の中を漂いながらも流されず、ただ宇宙の真理へと思いをはせていこうと、ヤンマーの天気予報で、気象衛星ひまわりからの映像を見て思った。

STORY OF THE GLORY

上京して2年間、俺は調布にある外資系電気メーカーで働いた。

営業開発という部門で、毎日新しい電気製品の開発を行い、

それをテレックスで世界各国にオファーするという、

今考えると結構おもしろい仕事だった。

だが、音楽への情熱は冷めることなく、夕方仕事から帰ると

いつも京王線の電車が通るたびに歌を歌っていた。

(近隣のメークを配慮した発声練習なのだ。)

実家や親戚にはまるで就職したかのように見せかけていたが、

ハッキリ俺は音楽をやる為に上京したつもりだったから、

稼いだ金は全部楽器につきこみ、休日はいつもスタジオに通いつめていた。

東京にはそんな奴等がウヨウヨしていて、

バンドのメンバーを探すのにそんなに時間はかからなかった。

楽器を持ってる奴を見ると、お互いに「おひとりですか？」

なーんてナンパみたいに声をかけて友達になっていく。

その友達が友達を紹介したりして、何しろ積極的にメンバーを探していくわけだ。

プロになってから手伝ってくれたりしたことがあるから

知っている人もいるかもしれないけど、

ギターの広田コージ。(現在永井真理子さんのハズバンド)

キーボードに高橋安土という巨人。

そしてプロデビュー。

俺は会社を辞め、ニューヨークそしてベルリンへと旅立った。(カッチョイイ)

その後は皆も知っているとおりの、サンセットコーリングをリリース。

そしてロンドンでのナイフのレコーディングと続く。

どちらの国でもビデオを回したから

「茶ーしばき関係」でビデオを手に入れることをオススメする。

ここまで手短かにキッズの足跡を話してきたわけだけど、こっから先は皆も俺も知らない

The Kids の STORY OF THE GLORY (栄光への道) が始まるわけだ。

今俺は、ちょうど上京した時のあの調布の街にいた時の感覚になってきている。

西やんに逢える!!

私、西川は皆さんご存じのとおり、kidsに参加する前までは、freeのドラマーをやっていました。しかも、わりと忙しく(つまり、売れっ子!)。結局、バックバンドは人事ひとごとのような気がして嫌気がさしてやめて、kidsにタイミングよく参加したわけだけども、今日は、そんな俺の仕事歴をいくつか紹介したいと思います。中にはCDやビデオになっているのもあるので、kids以外での俺のドラムも聴いてみたいな、という人は暇つぶしにでも聴いてみて下さい。

Live & Tour

- '84 白井貴子 & CRAZY BOYS
「We Must Change」Tour
- '85 渡辺美里 デビューTour
- '86 麻倉未稀
中村あゆみ & Midnight kids
「Rolling Age」Tour
- '87 少女隊
DARTS
- '88 木嶋浩史
浅香唯
- '92 井口一彦
- '93 横山輝一 「LUV」Tour
- '94 柿原朱美
横山輝一
- '95 横山輝一

Recording

- 白井貴子 & CRAZY BOYS
「Flower Power」
- 麻倉 未稀 「LIVE」
- 山田 浩司 (Nokko の兄)
「1st album」
- 山口 宗一
「太陽の君 三日月の僕」
- 横山 輝一 「K's Like This」



俺は、既にまたバックバンドの仕事をいくつか手がけている。嫌気がさしてバックバンドはもうやめたんじゃないの？って言われるかもしれないけど、俺ももう33歳になるんやでー。そうでもせんと、食えなくなりまんがな。そんなわけで、「嫌気がさした」などと言ってはおれんのです。嫌気どころか、バックバンドというか、人の曲を表現するということは、こんなにも難しかったんや、ということを経験改めて知り、今は日々精進って感じで、勉強させてもらってます。何しろ7年という月日をThe Kidsの音楽だけに注ぎ込んできたので、仕事？みたいな感覚を取り戻すのに時間が必要なのは当たり前かも知れんね。ま、頑張るわ！

The Kidsでの俺のドラミングは、あくまでも俺のドラムでしかなかった。つまり、少し変な言い方だけど、器用であった…、ということ。しかし、桐やんが望んでいたのは実を言うと、不器用なタイコ！なのであった。少し難しいけど、要するに、The Kidsでしか俺のドラムが生きないようなドラマーに、桐やんとしてはなあって欲しかったのだ。俺もそこんところは深く理解したつもりではいた。Beatlesでのリンゴ・スター、The Whoでのキース・ムーン、のように…。でも、所詮俺もそこまでは器用ではなかったんだね。そういう役割を果たせないまま、活動を休止するのは悔しく思うけど、今度ライブをやるときの目標にもなるから、それは俺のドラマーとしての腕に期待してくれ。桐やんも皆も…。そのかわり、桐やんも今まで以上に胸にグッとくるような曲を、俺や皆に聴かせてくれるはずだから。とにかく、前にも言ったけど、二人ともこれからまだまだ音楽を続けていくつもりだから、日々勉強！ということをお忘れずに頑張るつもりです。

そこで、ひとつだけ言わせてもらえたら…これは、俺が常に思い、感じていることなんだけど、『…これくらいでいいだろう…』なんて事は決して無い、ということ！つまり、「自分の限界はここまでだろう」って簡単に決めつけてしまわないこと。そこに留まらず、前進するのみ！これは全ての人にも言えることだと思っています。俺もこの言葉をずっと胸に抱いてこれから先も頑張って生きていこうと思っています。だから、どうか皆も自分をあきらめないで、精一杯、頑張ってくださいね。

My Drumming

それじゃ、最後になるけども…

The Kidsがここまでやってこれたのは間違いなく皆のおかげでした。

プロデビュー以前からのファンの人

新宿ロフトを初めとするライブハウスに通い続けてくれたファンの人

Kiss FM (Wild Kiss) を聴いてファンになってくれた人…

全ての Kids fan のみんな、

本当に心から皆にお礼を言わせてもらいます…

今までの応援と君達の笑顔に感謝します。

ありがとうございました。

Kidsはいつか絶対帰ってきます。

そのときは皆の身辺^{まわり}の状況も変わっているかもしれない。

または、全然今のままかもしれない。

どっちにしても Kids は皆の Kids として戻ってくることに間違いはないでしょう。

そのときはまた、その素晴らしい笑顔を俺達に見せてね…！

KEEP LOVIN'!!

SEE YA!!

投稿集vol.3 special

其の一

初めてお手紙させていただきます。ケガで入院中の不安の中、KIDS VOX からの突然の知らせに正直なところかなりショックでした。私と The Kids との出会いは「イカ天」でした。高一の時からギターを始め、仲間とバンドを組んですっかりミュージシャン気取りでした。そんな頃何げなく見ていた「イカ天」で The Kids が登場。メチャクチャショック受けました。上手く言えないけど、体中電流が走る思いでした。それ以来ずーっとファンです。はっきり言ってハマりました。桐明さんの書く詞には自分のいきざまというか、共感するものがあって、かなり影響を受けました。特に「SUNSET CALLING」、初めてこの曲を聴いた時は、マジで涙が流れた。もちろん今でも大好きです。名古屋でのライブは欠かさず行きました。栗田さんがスキンヘッドで出てきたこと、思い出します。桐明さんが「ROUGH CUT DIAMOND」の曲演奏中「荒削りの男達」と歌いながら僕に指をさしてくれた事（勘違いかも）忘れません。西川さんの髪がのびていく様子、素敵でした。あの頃僕は18歳で浪人中、つらい時には The Kids を聞いて乗り越えました。無事大学に受かり、新たにバンドを組み The Kids の曲をコピーしまくってライブもした。そのころ「Real Love」が出て、以来ライブの数が減ったので残念でした。私が何とかしよう！と思って、友達に「SUNSET CALLING」のプロモーションビデオを見せたり、CD 聞かせまくった。時には私がギターで歌い聞かせた。もちろん今でも。活動停止と聞いて残念だけど、私はこれからも The Kids を応援します。そして大好きなギターも続け、

音楽も続けます。だから絶対復活させてください。信じています。桐明さん、西川さん、栗田さんも頑張って大好きな音楽を続けてください。では、いつかどこかで会える日を楽しみに待っています。今まで本当にご苦労様でした。そしてありがとうございました。

no.16

ギターの話で恐縮やけど、俺が気に入って一バンドで、イギリスに「レディオヘッド」ちゅうのがおる。そのバンドの 1st Album 「パプロハニー」の中に、「Any can play guitar」っていう曲があって、ライナーノーツにこう書いてあった。「選ばれた者がギターを持つわけでも、誰もがギターを持つわけでもない。ギターを持つのは、ギターを持って歌わねばならなかった人間だけなのだ。」と……俺はこの認識を徹底的に前向きに（ポジティブ）に捉えたいと思っている。「Every one should play guitar」

きり

俺もあのイカ天の The Kids というバンドを客観的に観ていたら、絶対にトリコになったと思うくらいカッコ良かったよなー！君みたいにキッズのコピーをした人は、一度俺達にテープを聴かせなさい。いや、めっちゃ聴きたい。

にし

其の二

悲報を読み、僕はニヤリとしてしまった。「またやってもうたか」と。確かに The Kids のあたらしい音をいつ聴けるのか？という点においては大変残念なのだが、今も昔と変わらず音楽に対する「コダワリ」を忘れていないな、と嬉しいニヤリ「またやってもうたか」である。おそらく The Kids のメジャーデビューが遅かったのも、音楽への「コダワリ」があったからだと思います。今回の悲報にしてみても、

創っては解散を繰り返してきた The Kids にとっては、おこるべきしておきた結果と受け取っています。もちろんそれは今までとも変わらず前向きな次へのステップの為のもの。けっこう昔からのファンの方は僕みたいに思っている人が多いんじゃないかな。ハッキリ言ってそうでも思わないと The Kids のファンは長くやられてられない。例えばいつ会えるのかもわからない恋人を思うような気持ち。とにもかくにも僕はこれからも応援していきます。こんなにカッチョイイバンドは世界中どこを探しても他にないのだから。一日も早い吉報を待っています。
「Once More Kids」

Exactly you are. The Kids のファンを永くやっていくことは、俺が The Kids を続けていくよりしんどいかもしれん。

きり

其の三

なんかありがどうなんて変です。私はずっと The Kids を好きだし、たくさん文句も言ったけど。The Kids を初めて見た7年前、ロックなんて全く興味なくて、何げなく見てたら、あの時すごくビックリして、その時の衝撃と言ったら……。あの時の気持ちと今の気持ちは変わってないと思います。前の時もそうだけど、ライブやらなくなると、いつもこんな事になる。会報を読んでその中に「自分達が納得いくものをつくらなくては」、私にはお二人が何をやりたくてどうしたいのかわからないけど、二人で考えたことだからしかたないけど、具体的に何も決まらずで、これから先私達は待っていて二人の求める The Kids に出会えますか？又プロに戻ったら自由をつかめますか？又いつかライブをやったら私達が待っていて良かったという The Kids ですか？ごめんなさい、ひねくれて。いつもこういうふうにしかならない。二人で決めた事です。自分達の納得するよう歩いて行って下さい。この7年間 The Kids に出会えたこと、本当に良かったと思っています。ただ文句があります。「ありがどう」という言葉は解散する時にしてください。また私の

大好きな The Kids に会えること楽しみにしています。

俺がやりたいとは、ロックンロール。それだけたい。ところで、「ありがどう」のing形ちゅうのじゃダメ？
きり

其の四

会報読みました。正直ショックです。アルバム、その他のイベント、これから先のことを楽しみにしてたから……。The Kids の言いたいこと、考えていること、わかっているつもりなのですが、素直に受け入れたくないです。でも The Kids の音楽へのこだわりとか生き方が好きで今までずっと応援してきたつもりだからしょうがないかなとも思えますが。うーん複雑です。これから永いことを考えれば、今休んでいてもいい時なのかもしれませんね。ずっと走り続けることも必要かもしれませんが、生きて行くうえでは休むことも大切なことですよ、きっと……。栄養補給してスーパービッグなかつこいい The Kids になってください。これから先、いくらかかっても少々浮気をしてもずっとずーっと The Kids のファンでいつづけます。どんな形であってもはやく桐明さん、西川さんの顔、音がみたいです。私もいい女になります。(本当かなあ?)

The Kids の活動は一時休止やばってん。俺達は休んどるヒマやら無さそーやね。

P.S.浮気は女の甲斐性たい。

きり

其の五

「大スターになると、後は……残された道は引退なんだよ……(苦笑)」とモップスのvo 鈴木ヒロミツ氏が解散コンサートを収めたアルバムの中で言っていた。私は「そんなことは無いよ」と思ったけれど。The Kids なんてまだ盛り詰めてもいないのだから、解散されては困ります。(笑)「日本のロック界の汚点に

なるので解散はしない」と書いていらっしやっ
たので、さすがに突然の News に2.3日は落ち込
んだものの、今は私も前向きになって、これか
らもまだまだ The Kids にはしがみついても
追いかけて頂きますよ。本当に解散なんて
いつでも出来るから、続けて行く事が大変
なことですけど頑張って欲しいです。

Yes,sure.しがみついとってよかぜ。

きり

其の六

拝啓、会報届いてうれしくない予感が当たって
しまいました。残念の一言で片付けられない。
でも、私も音楽が好きでキッズを愛しています。
だから「音楽を続けていく。キッズを解散は
しない。」これで充分です、今は……。レ
コード会社も事務所も決まっていな中、
これからすごく大変でしょう。「納得のいくもの
を作らなきゃ意味がない。時代から一歩早すぎ
るかもしれないキッズ」そのとおりでと思います。
でも、オルモックだの流行もの戦略ロックな
んかより、心にしみいる魂ゆさぶる音楽は、
やっぱりあなたたちがやるべきことです。
時代は必要としてくる！私のここ1.2年もいろ
いろありました。10年働いた会社がつぶれ病気
になり、それからバイトでなんとか生活し、
今また検査手術をしたところです。とても不安
です。でも私も流されないように頑張ります。
キッズのライブを見ていたあの幸せをもう一度
取り戻したいから……。やりたいことがある
うちは幸せだと思います。どんな風に成長した
二人に会えるか楽しみにしてます。ひとつづつ
手かせ足かせ取って行って頑張らしましょう！
FIGHT OR FLIGHT!

キャシャーンがやらねば誰がやる～。キッズがやる。

きり

キッズに関わった人はたぶん、そういう風にみんな
思っている。俺もその一人！！

にし

其の七

最初 KIDS VOX vol.7 を見て、すぐに「んっ」
と思い読み始めたたん、えーっと声がでて
しまい信じたくない事実をつきつけられて、
その後、何をしてても退屈でキッズが・・・
とボーッとしてしまう程ショックです。キッズ
を友達から教えてもらってすぐに、神戸から
博多へとライブを見てから10年たって、その時
から今日まで、その友達とは同じテンションで
キッズのライブがあればノリまっくっていたのに…
桐明さん、西川さん。本当に解散なんてしないで
下さい。プリテンダーズやクリームゾンなんかも、
多少インターバルがあっても新メンバーが入っ
てアルバム出してる訳だし、僕も僕らもそんな
気持ちで KID HEART を抱きしめて、バイブル
を片手に NOISE にジャマされながら、光る眼
で睨み返す毎日を UNDER THE MOONLIGHT
の下で dilemma を感じながら Hi-To-Ha-Ta あげ
る夢物語を追い求めながら復活の日を待って
います。桐明さんの歌も、西川さんのドラムも
また聴けると思っていたのに本当に悲報です。
本当に頼みます。どんなカタチになっても桐明
さんと西川さんは離れないで欲しいです。

離れたくても離れられない人間というのは、誰でも
一人はいるんじゃないかな？それが俺には桐やん
なんじゃないか、と思う。

安心してええでー、離れんから。

にし

たしかに。

きり

其の八

今日、歯医者に行って抜歯した。痛か～！2.3日
すれば治るやろーばってん、キッズ活動休止の
痛み (shock) は復活するその瞬間までずえっ
たい治らん!!! P.N. どこまでも権左命♡

先日、某テレビにて「日本ロック大全集」なる
番組をやった。視聴者のリクエストによる

名曲ランキング BEST 50 っのを見てて、
途中で頭が痛くなって消してしまった。
コノママデハイケナイ……ナニカガオカシイ。
こう思ったのは私だけ？

P.N. 皆、もっとイイ音楽を！委員長

キリアケさん、次のファンクラブ発足の折りは、
ぜひぜひ私にまかせて！ P.N. 権左命♡

2人が気持ち良くやれるなら、桐さんが歌いたい
ものを歌えるんなら、インディーズに戻ったって
いいと思う。要はカタチじゃなくて中身。
キッズの本質を壊そうとする奴等を私は許さない。
これでオシマイなんて全然思っていないからガンバレ。

P.N. JANE

キリアケさん、ニシカワさん、今後もしつこく
ファンでいますのでどうぞよろしく。

12/12の久留米であった、FM長崎 (U4 POOL SHOW)
を録音している方がいらっしゃいましたら
お願いします。

世の中は思い通りにならない事ばかり……。
でも満たされてばかりいたら、努力するかいも
無くなっちゃうから、これくらい飢えている方が
いいのかも。…いつも追いかける側にいた方が
楽しいさ。

キッズファンの人と文通、もしくは関西の方で
いっしょにキッズのライブにいける人と友達に
なりたいです。(関西以外の方も OK!)
それと Kiss-FM のワイルドキッスの1回目の
テープがある方、お金はこちらもちでよいので、
送って下さる方よろしくお願いします。

キッズ教へ入信してもうすぐ10年。「教祖キリアケ」
に世間は未だについてこれないようだ。

P.N. no.46

たくさんのお便り
本当にありがとうございました。



茶一しばき関係の答⁴

さあ、あなたの本当の心がアバカレル!!

Question

あなたは、5匹の動物を連れて旅にでることになりました。
しかし、途中で一匹ずつ手放していかなければなりません。
さて、あなたは、どの動物から手放していきますか？

Answer

桐明：トラ☞サル☞ウシ☞ヒツジ☞ウマ

西川：サル☞ヒツジ☞トラ☞ウシ☞ウマ

うま(仕事)
うし(親)
ひつじ(恋人)
とら(プライド)
さる(こども)

実はこんな意味があったんですねー。
あなたの結果はどうでしたか？

当選者発表!!

二人の答えと一致した人は…残念ながら一人もいませんでした。
けれど、抽選で6名の方に二人のとおきの私物をプレゼントします。

(前会報にビデオとお知らせしましたが、都合により変更させていただきます。

又、制作進行上7/5までのハガキで抽選させていただきました。

おしくも間に合わなかった方、ゴメンナサイッ。)

no,16 ■■■■■ 様 no,46 ■■■■■ 様
no,24 ■■■■■ 様 no,82 ■■■■■ 様
no,33 ■■■■■ 様 no,88 ■■■■■ 様

おめでとうございます!!

live! live! live!

桐明孝治

7/16 (tue) 下北沢ロフト

“田中一郎氏 (KAI BAND のメンバー) が飛び入り!”

問い合わせ (03)3412-6990

西川貴広

7/10 (wed) 新宿パワーステーション

“及川光博氏”
問い合わせ (03)205-5270

7/16 (tue) 下北沢QUE

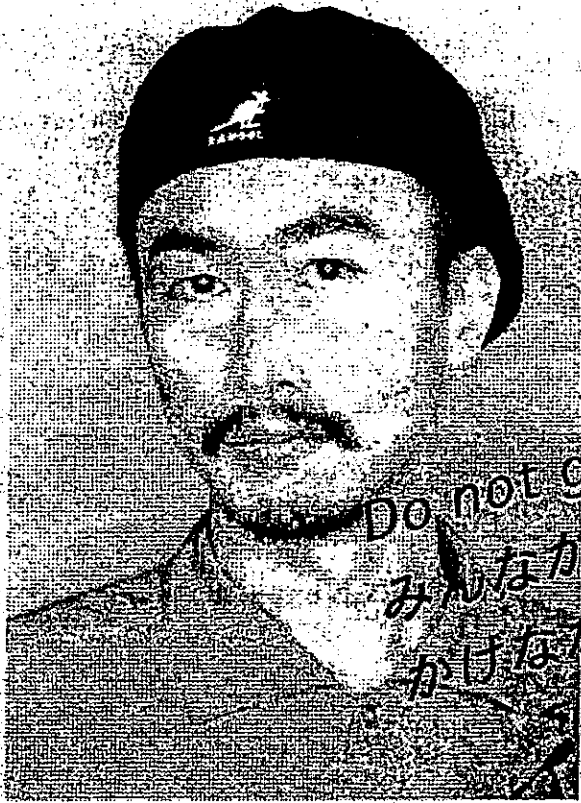
“広田”
問い合わせ (03)3412-9979

7/27 (sat) 下北沢ガレージ

“今西太一氏”
問い合わせ (03)5454-7277



栗田博からも一言!



Do not give upだと思えます。
みんながんばれ!!
かけながら応援してます。

きつず写真館



さすけ

ええ男つや

information

この vol.8 「The Final Issue」がお手元に届いた時点で
ファンクラブは解散終了といたします。
後程会員の皆さん全員にメンバーから
心からのプレゼントをお送り致します。

お楽しみに!!!

年会費について

誠に申し訳ございませんが
全員一律ご返金致しません。
何卒ご了承下さいます様宜しくお願いします。

グッズカードについて

不要となりますので各人で処理願います。

今後の連絡先

メル音楽出版株式会社アーティスト室
東京都港区北青山 [REDACTED]

*The Kids としてではなく
ソロとして新たにメル音に所属しました!

会報は最終号となってしまいますが
DMは通常どおり郵送致しますので
今後とも宜しくお願いします。

KIDS VOX VOL.8

1996年7月18日発行

メル音楽出版株式会社

東京都港区北青山 [REDACTED] [REDACTED]
phone (03) [REDACTED] fax (03) [REDACTED]